

障害児基礎教育研究会

第32回

教材 工夫展

-対話の道具としての教材教具-

後援：全国特別支援教育推進連盟

長野県教育委員会（申請中）

2026年8月23日（日）10:00-16:00

信州大学長野キャンパス 図書館講義室

「障害児基礎教育研究会」は、故水口浚（みずぐちふかし）が、障害児教育のあり方を明らかにすることを目的に平成元年に設立したものです。

教材教具の開発・工夫・実践を通して、教育の基礎を解明することを目的としています。「見る、見たものに手を伸ばす」など、初期の運動操作から概念形成・記号操作に至るまでの過程を教育実践に基づいて解明しようとしています。そこでは、教材教具は対話の道具であり、子どもと支援者は互いに学び合う存在として、学ぶ喜びを共有する人間関係が大切にされます。

当日は、触覚と運動を呼び起こす立体の教材教具が一堂に展示されます。午前中は、自由に触って楽しむことができ、製作者が活用相談、製作相談に応じます。午後は、学習活動の背景にある理念についての講演と実践発表です。教育分野に限らず、医療・福祉・心理分野で障害のある方の支援にかかわる専門家、学生、ご家族の参加を歓迎いたします。保育設備はありませんが、お子様連れのご来場も歓迎いたします。

午前

入退室自由

自由観覧・製作者との対話

製作相談・活用相談・ビデオ視聴

-休憩（昼食は各自ご用意ください）-

午後

実践発表：「話し言葉が出る以前の子どもの学びを支える」

沖縄県立宮古特別支援学校教諭
大野 晴菜

講演：「対話の道具としての教材教具

-操作を通して「相互障害状況」を解く-

全国療育相談センター 立松 英子

参加登録

*ホームページ(<https://kisoedu.jp>)
よりお申し込みください。

参加費 2000円 * 要事前登録・振込
(学生・保護者半額/1家族 1000円)